
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.265 2021/5/6

1 有毒植物による食中毒防止の徹底について

4月20日、厚生労働省は医薬・活衛局食品監視安全課長名をもって各都道府県等衛生主管部（局）宛宛標記通知を出した。その主な内容は次のとおり。

例年、特に春先から初夏にかけて、有毒植物の誤食による食中毒が多く発生しています。

つきましては、各都道府県等におかれては、厚生労働省で作成したリーフレットや自然毒のリスクプロファイル等を活用するなどにより、食用と確実に判断できない植物については、絶対に「採らない」、「食べない」、「売らない」、「人にあげない」よう注意喚起を行うようお願いします。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000771317.pdf>

2 「営業許可制度の見直し及び営業届出制度の創設に関するQ&A」について

4月23日、厚生労働省は医薬・活衛局食品監視安全課名をもって各都道府県等衛生主管部（局）宛標記事務連絡を出した。その主な内容は次のとおり。

標記については、令和2年12月28日付け事務連絡（令和3年3月3日改正、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課）にてお知らせしているところです。

今般、別添のとおり「営業許可制度の見直し及び営業届出制度の創設に関するQ&A（別添1及び別添2）」を改正するとともに、厚生労働省ホームページに掲載しましたので、業務の参考のためお知らせします。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000774307.pdf>

3 「営業規制の経過措置に関するQ&A」について

4月27日、厚生労働省は医薬・活衛局食品監視安全課名をもって各都道府県等衛生主管部（局）宛標記事務連絡を出した。その主な内容は次のとおり。

標記について、本制度に関する問い合わせへの対応等を取りまとめ、別添のとおり「営業規制の経過措置に関するQ&A」等を作成するとともに、厚生労働省ホームページに掲載しましたので、業務の参考のためお知らせします。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000774308.pdf>

4 食品中の有害化学物質等の検査結果調査及び畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施について

4月28日、厚生労働省は医薬・活衛局食品基準審査課長及び食品監視安全課長名をもって各都道府県等衛生主管部（局）宛宛標記通知を出した。その主な内容は次のとお

り。

令和2年度、各自治体で実施した検査の結果を、別添1「食品中の有害化学物質等の検査結果調査実施要領」により報告いただきますとともに令和3年度畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査の実施については、別添2「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」により実施するようお願いします。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000775336.pdf>

5 「食品安全総合情報システム」公表

4月30日、食品安全委員会が公表した標記システムに次の記事が掲載されている。

https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?keyword=%EF%BC%AC%EF%BC%A4%EF%BC%95%EF%BC%90&query=&logic=and&calendar=japanese&year=&from=struct&from_year=2021&from_month=04&from_day=03&to=struct&to_year=2021&to_month=04&to_day=16&areaId=00&countryId=000&informationSourceId=0000&max=100&sort_order=date.desc

米国食品医薬品庁(FDA)は4月6日、調査報告書「2020年秋の腸管出血性大腸菌0157:H7集団感染に関連した葉物野菜の汚染に関与した可能性のある要因」(13ページ)を公表した。概要は以下のとおり。

FDA並びに複数州及び連邦の関連機関は、2020年8月から12月の間、腸管出血性大腸菌0157:H7食中毒と葉物野菜の摂取に関連する集団感染について調査を行った。国内で40人の疾病が報告された当該集団感染は、全ゲノムシーケンス解析(WGS)及び地理的情報により、カリフォルニア州の栽培地域に遡及された2019年及び2018年の葉物野菜の摂取に関連した集団感染と関連付けられた。FDAは州及び連邦関連機関と共に、葉物野菜の腸管出血性大腸菌0157:H7汚染につながった可能性のある要因を特定するために調査を行った。当該腸管出血性大腸菌0157:H7の集団感染株は、畜牛の糞便混合検体中で確認され、その検体は、遡及調査により当該集団感染に関連付けられた複数のほ場をもつ、ある生産農場から約1.3マイル(約2.1km)程、坂を上る道路沿いで収集されたものであった。更に、2020年の葉物野菜集団感染の、複数の潜在的な要因が特定された。

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05590310105>